

# 辰巳議員と半導体政策を語る

## ルネサス懇

### 半導体政策について意見交換

ラピダスの支援法案が開催中の通常国会で今月中に提出される見込みです。電機・情報ユニオンは日本共産党の辰巳孝太郎衆議院議員の求めにより、意見交換会を1月26日と28日に開催し、ルネサス懇も参加いたしました。

ルネサス懇からは、ラピダスが技術的に実現困難であることに加え、ビジネス的にはより一層実現性が低いことを説明しました。したがって2nm以降の世代の開発も含めて、ビジネスとしての具体性を追求すべきであるとの見解を述べました。また最悪の事態は、米国の利益のために莫大な赤字を垂れ流しながら、やめるにやめられなくなることも指摘しました。

### ルネサス懇の追加的問題意識は

日本の半導体の復活・復権という観点からの著作は、これまで多数出版されています。これらの著作の多くは、現在の日本の半導体産業の状態を衰退や失敗と捉えて、日本の企業が再び盛り返すことを是とする観点から書かれています。しかし展開されている議論には、いくつか希薄または欠落した観点があり、追加すべきであるように思われます。以下に10項目を上げます。

- ①なぜ衰退したのかを考察するうえで、それ以前になぜ発展できたのかを検討する必要があるのではないか。
- ②その発展とはどのようなものだったか。かつて日本の半導体産業は世界一だったと言われるが、実際には何が世界一だったのか。
- ③日米軍事同盟は非対称・非対等な関係である。日米同盟を前提とした対米追従の経済政策で、本当に日本が発展する道はあるのか。
- ④アメリカや日本だけでなく、欧州や韓国やインドなど、各国で半導体帝国

＜発行者＞  
ルネサス関連  
労働者懇談会  
(ルネサス懇)  
意見と情報は、  
〒142-0043  
東京都品川区二葉  
2-20-8染野ビル  
(電機労働者  
懇談会気付)  
(03) 6421-5323

電機・情報ユニオンへの相談は、



主義とも言える様相が見えてきている。環境問題など待ったなしの人類の課題に対処していく妨げになっていないか。

⑤半導体の解決する社会課題とはなにか。最大の社会課題は格差と貧困ではないのか。(そもそも貧困者は技術の成果を享受できない。)

⑥半導体産業には科学の総合力が必要。国立大学の法人化と学費値上げ、理研の非正規研究者の大量雇止め、文系教育の冷遇、教育格差(男女格差含む)、理系離れ、オーバードクターの就職難、学会議の任命拒否問題や法人化など、科学の分野で深刻な問題が多重的にあるが、関連性がほとんど語られない。

⑦利権政治との癒着をいかに断つか。経済安全保障を口実にした日米軍需産業との癒着、電力需要増加を理由にした原発ムラとの関連などを疑う。

⑧日本の半導体企業が儲かったとして、それで国民は本当に豊かになるのか。産業育成のための莫大な予算は次世代へのツケとされる。一方で、ルネサスだけでなく多くの企業が莫大な利益を上げながら、社会に還元しない仕組みが目立つようになってきている。国民全体が豊かになる道筋が見えない。

⑨グローバルな半導体バブルをどう見るのか。日本や先進国が国の借金を増やす傾向が見えている。それらがハイテク株、半導体株を急騰させている。盛んなM&Aは、結局ファンドなどの巨大資本をさらに巨大化させている。明らかにバブルと思われるが、この帰結がどうなるか見えない。

⑩AIによる人権侵害の懸念と、その対策の不十分。巨大資本によって開発が促進されているAI技術は、資本の増殖を加速することを目的に使用されるのではないか。

以上について労働組合的視点から検討し、今後ホームページなどで公開していくことを検討しています。